

# れきはく NEWS

vol.50  
2020.SEP

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

## CONTENTS

- 2 企画展「編纂1300年 日本書紀と出雲」
- 4 展覧会通信
- 5 展覧会ポスター大集合!
- 6 学芸員通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 歴博の新型コロナウイルス感染症対策  
ミュージアムカフェ maru café / SHOP INFORMATION



企画展 編纂1300年

# 日本書紀 と出雲

令和2年10月9日(金)  
-12月6日(日)





## 【企画展】

### 編纂1300年

# 日本書紀と出雲

**会期** 令和2年10月9日(金)～12月6日(日)

◎開館時間／[10月31日まで]9:00～18:00 [11月1日から]9:00～17:00

◎会期中の休館日／10月20日(火)・11月10日(火)

**会場** 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

**主催** 島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

令和2年は、日本最初の正史である『日本書紀』が編纂されてから1300年にあたります。『日本書紀』に記された神話・伝承からは、古代の日本において「出雲」が特別視されていたことが読みとれます。また、『日本書紀』にはさまざまな解釈が加えられていき、「出雲」に対する見方も変遷を遂げてきました。近年では「神話の国」や「ご縁の国」といったイメージが強い出雲ですが、そのような現代の出雲観の背景には『日本書紀』の再解釈が影響していると考えられます。

そこで、本展では『日本書紀』とそのなかに見える神話・伝承、さらには解釈のありようを、歴史・美術・民俗などの文化財を通じて紹介します。また、そのなかで「出雲」がどのように捉えられてきたかについても再確認できる機会となれば幸いです。



めんぐろ古墳出土  
相撲小像付須恵器壺

## フロア

### 出雲世界の成り立ち

『日本書紀』成立以前の出雲世界について、特殊壺や玉類など、出雲の特徴を示す品々を通じて紹介します。

#### 主な展示品

- 団原古墳出土須恵器（出雲型子持壺）  
[島根県埋蔵文化財調査センター蔵]
- 島田池1区2号横穴墓出土玉類  
[島根県埋蔵文化財調査センター蔵]

## I

### 日本書紀とはなにか

『日本書紀』は養老4年（720）に完成した、日本最初の正史です。その『日本書紀』とはどのようなものなのか、文献史料をもとに紐解きます。

#### 主な展示品

- 続日本紀（明暦三年版）[当館蔵]
- 日本書紀（寛文九年版）[当館蔵]

## II

### ノミノスクネ伝承 —相撲の祖—

『日本書紀』に記された伝承には、相撲の祖、埴輪の祖とされ、出雲ゆかりのノミノスクネに関わるものがあります。そのノミノスクネ伝承について、特に相撲に焦点をあてて紹介します。

#### 主な展示品

- めんぐろ古墳出土 相撲小像付須恵器壺  
[個人蔵、当館寄託]【島根県指定文化財】
- 芳年武者無類 野見宿祢・當麻蹴速  
[当館蔵]



芳年武者無類 野見宿祢・當麻蹴速

## III

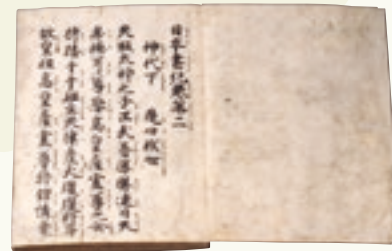
### ヤマタノオロチ退治伝承

『日本書紀』のみならず、『古事記』にも記され、よく知られているスサノヲによるヤマタノオロチ退治。その伝承について、時代とともにどのように解釈されていき、新たに理解されていったのか、絵画作品を中心に紹介します。

#### 主な展示品

- 神像 本殿板壁画 伝素盞鳴尊・稲田姫命（複製）  
[当館蔵（原品は八重垣神社蔵）]
- 八岐大蛇 〈松本楓湖〉[島根県立石見美術館蔵]
- 太鼓台飾幕 八岐大蛇退治 [宮北・落合地区蔵]

## 逸品展



日本書紀「向日神社蔵」  
（写真提供・向日市文化資料館）

### 『日本書紀』 —向日神社本と内神社本—

京都府向日市にある向日神社蔵の『日本書紀』（巻2）と島根県松江市にある内神社蔵の『日本書紀』（巻3）を前期・後期にわけて展示、紹介します。

#### 主な展示品

- 日本書紀 [向日神社蔵、向日市文化資料館寄託]  
【重要文化財】 ※10月9日～11月9日のみ展示
- 日本書紀 [内神社蔵、当館寄託]  
※11月11日～12月6日のみ展示



太鼓台飾幕 八岐大蛇退治 (写真提供：宮北・落合若連中)

## Ⅳ 出雲大社の復古と出雲信仰の広がり

近世には出雲大社が復古にむかい、社殿の様相が変化していきます。出雲大社の神徳を伝えた御師の活動も踏まえつつ、信仰の広がる様子を紹介します。

- 主な展示品 ● 出雲大社御師版木 [当館蔵]  
● 大社縁結図 [当館蔵] ※10月9日～11月9日のみ展示

## Ⅴ 近世の『日本書紀』解釈 — 幽顕の世界 —

近世には国学が隆盛するなか、『古事記』とともに『日本書紀』の神話研究も深められていきました。そのなかで影響を与えた人物に焦点をあて、『日本書紀』神代下第九段一書第二で述べられる「幽顕」がどのように解釈されていったのかを紹介します。

- 主な展示品 ● 本居宣長像 [当館蔵]  
● 平田篤胤像 [当館蔵]  
● 六人部是香像 [向日神社蔵、向日市文化資料館寄託]

## Ⅵ 自重館文庫の世界

北島国造家に伝わる自重館文庫の神道書を通じて、近世中期における北島国造家の神道研究、『日本書紀』研究の様子を紹介します。



先代旧事本紀大成経

- 主な展示品 ● 日本書紀事跡抄 [北島家蔵]  
● 先代旧事本紀大成経 [北島家蔵]

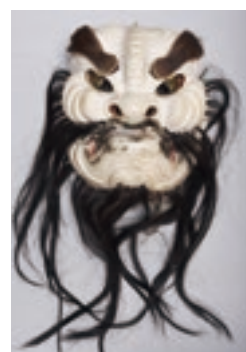
## Ⅶ 国譲り神話 — 諸手船神事・青柴垣神事・出雲神楽 —

『古事記』や『日本書紀』にみえる国譲り神話をモチーフとした神事に美保神社で行われている諸手船神事と青柴垣神事があります。また、出雲神楽においても国譲り神話をもととした演目が存在します。両神事と出雲神楽を通じ、出雲に伝えられた国譲り神話を紹介します。

- 主な展示品 ● 諸手船神事絵巻 [美保神社蔵]  
● 蒼柴籬神事絵巻 [美保神社蔵]  
● 神楽面 荒神 (建御名方) [個人蔵、当館寄託]



諸手船神事絵巻



神楽面 荒神 (建御名方)

## エピソード 神々の国、出雲

小泉八雲が出雲を「神々の国」と述べたように、出雲と神々の関係が近代には一層強調されるようになります。前史としての中世・近世の史料を踏まえつつ、その流れを紹介します。

- 主な展示品 ● 鱈淵寺衆徒勤進帳案 [鱈淵寺蔵、当館寄託]  
【重要文化財】 ※10月9日～11月9日のみ展示  
● 神魂社造営覚書断簡 [神魂神社蔵]  
【島根県指定文化財】 ※11月11日～12月6日のみ展示  
● Glimpses of Unfamiliar Japan (知られざる日本の面影) [当館蔵]

● 新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

こちらもおすすめ!

## 関連講座

(会場) 古代出雲歴史博物館 講義室

各講座とも定員40名(参加無料)

※講座に参加される際は、マスクの着用をお願いします。

第1回

### 日本書紀1300年と出雲大社

- 日時/10月10日(土) 13:30～  
● 講師/斎藤 英喜氏 (佛光大学教授)

第2回

### 北島国造家と神道書 — 自重館文庫調査を通じて —

- 日時/10月18日(日) 13:30～  
● 講師/西岡 和彦氏 (國學院大学教授)

第3回

### 『日本書紀』と『出雲国風土記』 — 出雲臣広島の『日本書紀』への向き合い方 —

- 日時/11月15日(日) 13:30～  
● 講師/伊藤 剣氏 (明治大学准教授)

第4回

### 中近世出雲における『出雲国風土記』の受容と『日本書紀』

- 日時/11月28日(土) 13:30～  
● 講師/高橋 周氏 (出雲弥生の森博物館専門研究員)

関連講座に参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法  
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。  
● お申し込み先  
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
古代出雲歴史博物館  
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350  
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】  
この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、関連イベント・講座開催の目的にのみ利用する場合は、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。



奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展

# しきしまの大和へ

◎会期／令和3年3月19日(金)～5月17日(月)

■開館時間／9:00～18:00

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

万葉集に「しきしまの」と枕詞を掛けられる大和。そこには、古代日本の中心地であったことを示す遺跡が数多くあります。この大和の考古学を80年以上にわたって牽引してきたのが奈良県立橿原考古学研究所です。この度の展覧会は、橿原考古学研究所附属博物館が所蔵する出土品の数々を東京・神奈川・福岡・島根の4都県で巡回展示するものです。さらに当館では、令和元年度に東京国立博物館で開催された特別展「出雲と大和」の成果をもとに、特別に国宝・重要文化財を含む貴重な資料を追加して展示します。

縄文時代から中世にかけての優品を通じて、ユーラシア大陸や朝鮮半島からの外来文化が我が国のくにづくりにいかに関わり、大和ごころが培われていったのか紹介します。この機会に壮麗な“しきしまの大和”を感じていただきたいと思います。



**大きく口を開いた土偶**

観音寺本馬遺跡  
縄文時代晚期  
(紀元前約1000～400年)  
橿原考古学研究所蔵

乳房の表現がなく、脚はどっしりとしています。男性をかたどったとみられる珍しい土偶です。



**珍しいかたちの勾玉**

澤ノ坊2号墳／古墳時代前期(4世紀)  
橿原考古学研究所附属博物館蔵

鮮やかな緑色をした翡翠製の玉です。2つの勾玉があわさった独特のかたちをしています。



**大量副葬された中国鏡【重要文化財】**

黒塚古墳／古墳時代前期(3世紀)／文化庁蔵

黒塚古墳には33面の三角縁神獣鏡(右)と1面の画文帯神獣鏡(左)が収められていました。この中から選りすぐりのものを展示します。



**金色に輝く馬具【国宝】**

藤ノ木古墳  
古墳時代後期(6世紀)  
文化庁蔵

金メッキをした銅板に龍などの文様が技巧をこらして彫られています。

**人面が描かれた土器**

稗田・若槻遺跡／奈良時代(8世紀)  
橿原考古学研究所附属博物館蔵

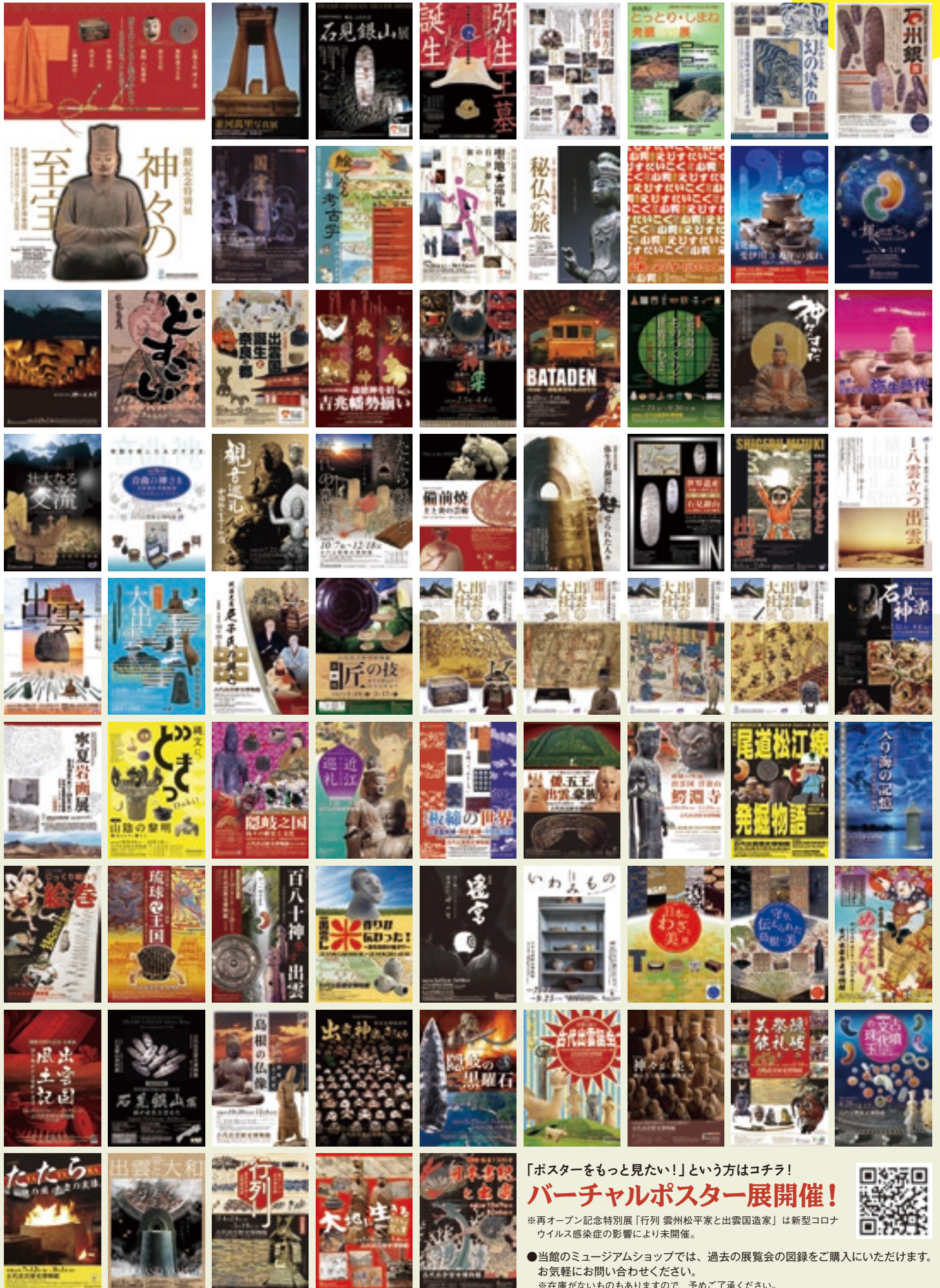
疫病やけがれを流すための祭祀で用いられた壺で、体部にはユーモラスな表情の顔が墨書されています。





# 展覧会ポスター大集合!

いくつご覧になりましたか?



「ポスターをもっと見たい!」という方はコチラ!  
**バーチャルポスター展開催!**

※再オープン記念特別展「行列 雲州松平家と出雲国造家」は新型コロナウイルス感染症の影響により未開催。

●当館のミュージアムショップでは、過去の展覧会の図録をご購入いただけます。  
お気軽にお問い合わせください。  
※在庫がないものもありますので、予めご了承ください。





## 「日本書紀」こぼれ話

## 「日本書紀」は「日本紀」？ それとも「日本書紀」？

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 吉永壮志

今から1300年前の養老4年(720)に舍人親王(676～735)が奏上したのが「日本書紀」だといわれます。しかし、その記事を載せる『統日本紀』には「日本紀」や「紀」とみえるだけで、「日本書紀」とは記されていません。大伴家持(～785)の編とされる『万葉集』には、例えば舒明天皇が讃岐国へ行幸した際に軍王が詠んだとされる5番歌とその反歌である6番歌の左注に「日本書紀」という文言がみえる一方、軽太子とその妹の軽太郎女(衣通王)の悲恋のなかで軽太郎女が詠んだとされる90番歌の左注に「日本紀」の文言が確認できます。このことは「日本紀」と「日本書紀」が同一のものを指していたことを示していますが、それでは、「日本書紀」という書名はいつごろからみえるのでしょうか。

現在、もっとも古いとされているのが、養老令の私的注釈書である『令集解』のなかにみえるものです。天皇の命令である詔書の書式や発布手続きについて規定した公式令1詔書条の注釈部分で、古記(大宝令の注釈書)の問答を引用するなかに「日本書紀巻第一」という文言がみえるのです。古記自体は天平10年(738)ごろに成立したと考えられるため、早くから「日本書紀」という呼称も用いられていたことがわかります。そのため、「日本書紀」は「日本紀」でも「日本書紀」でもどちらでも問題ないといえますが、展覧会のタイトルは私たちになじみのある「日本書紀(と出雲)」としました。

さて、今回の展覧会開催にあたり、島根県立図書館

蔵の『令集解』を借用し展示しますが、その『令集解』には約16字分の脱落があり、該当部分に「古記」という文言がみえません。なぜ、このようなことが起こったのか。これはあくまで推測にすぎませんが、公式令1詔書条の注釈に「大事」という表記が多くみえるために、書き写すときに目移りし、1行分とばしてしまったのではないのでしょうか。島根県立図書館蔵の『令集解』の注釈部分は1行が約16字となっているのです。展覧会のための史料調査の際に気づいたことですが、人間はやっぱりミスする生き物だということを実感して、忙しいなか、ほっこりしたのを覚えています。

このように調査を通じてわかった「こぼれ話」がまだあります。今回の展覧会では、このような「こぼれ話」も、展示作品とともに紹介できればと思います。是非、作品の鑑賞はもとより、そのような「こぼれ話」にも耳を傾けてみてください。



『令集解』巻31(島根県立図書館蔵)

「日本書紀巻第一」とみえるが、「大事」という文言が多くあるために、本来あるべき「者(未取)古記云御宇御大八洲者並宜大事之」(〈 〉は割書部分)の約16字、1行分が脱落している。

## ◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

今年度開始のテーマ研究

### 出雲と伊勢

(研究期間: 令和2～令和5年度)

対比的にとらえられることの多い“八雲立つ出雲”と“神風の伊勢”。神話・古代史上の「聖地」ともいわれる両者の地域像は、何を背景にできあがったのでしょうか。

『日本書紀』には、いわゆる「国譲り」の代償として大己貴神のために「天日隅宮<sup>あめのひすみのみや</sup>」が建てられたこと、また大和の王宮を出て各地を巡った天照大神が「この国に居たい」と言って伊勢に鎮まった経緯が語られており、これが出雲大社と伊勢神宮の創建神話とされています。日本最初の正史である『日本書紀』に、このような創建の経緯が語られる神社は極めてまれですから、古代国家誕生の過程で、2つの地域がそれだけ重要な位置を占めていたことが読み取れます。



三重県伊勢市二見浦の日の出



出雲市大社町稲佐の浜の夕日

今年度から開始した本研究では、両地域がなぜ特別視されたのか、神話や文献史料、考古資料を手がかりに探っていきます。研究成果は令和5年度に、企画展や研究論集刊行など様々な方法で公表することを計画しています。どうかご期待ください。

■ 主担当者：専門研究員 松尾充晶

島根県古代文化センター『自宅で楽しむ 島根の歴史文化』

### 「電子ブック いまどき島根の歴史」公開



「いまどき島根の歴史」は、「山陰中央新報」の文化欄に、毎週土曜日に掲載されていた連載コラム記事で、現在も続いています（現在は日曜日掲載）。そのうち選りすぐりの50話を6巻にまとめて公開中です。歴史好きの方も「なるほど」と思わせる、ディープな歴史コラム満載です。

電子ブックは  
こちらのQRコードを  
読み込んでください！



画面イメージ



# 歴博の新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大するなか、当館ではお客様にできる限り安心してご覧いただけるよう、様々な取り組みを行っております。大変ご不便をおかけしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。



お客様一人ひとりの検温やご連絡先の確認



展示ケース等の定期的な消毒



神話シアターの利用人数制限



お客様へマスク着用や消毒のお願い



手で触れて楽しめるハンズオン展示や音声ガイドの利用停止



お客様同士の距離をとっていただき、動線を示すための立ち位置サインとスタンションポール



スタッフのマスクや手袋の着用、飛沫防止対策



## メニューがリフレッシュ!

こんにちは。ミュージアムカフェ maru café からのお知らせです。

博物館のリフレッシュオープンと共に、caféのメニューもリフレッシュしました。

11時までは2種のモーニング。ランチタイムは、自家製トマトソースのシーフードパスタ、当店自慢のワンプレートランチなど。スイーツも充実しています。

少し落ち着いた時間を過ごしたいお客様は、当店は是非ご利用くださいませ。



ピザトーストモーニング  
税込 500円



自家製トマトソースの  
シーフードパスタ 税込 980円

## SHOP INFORMATION

こんにちは! 古代出雲歴史博物館のショップです!

当館では、出雲市斐川町の荒神谷遺跡で1984年から85年にかけて発掘された、青銅器(国宝)の実物を展示しています。

その荒神谷遺跡出土の青銅器(銅鐸、銅矛)が発掘されてから今年がちょうど35周年となることにあわせ、当ショップではこれにちなんで製作された、オリジナルグッズを販売します。



数量限定

1・2号店で販売

青銅器 parasol

(ポリエステル製/直径約100cm)

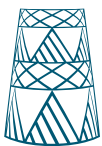
税込 **3,850円**

青銅器 parasol は、荒神谷遺跡出土の銅剣と銅矛、銅鐸が parasol の内側にイメージ画として印刷されています。傘袋には、後に加茂岩倉遺跡で発掘された35号銅鐸のイメージ画を印刷。県内で発掘された「国宝の青銅器」満載の parasol となっています。

仕様は折り畳み傘で、生地部分は二重でポリエステル製、紫外線カット(UVcut)90%で骨の部分はアルミニウムとなっています。親骨部分の長さは約50cmで、大変軽くできています。価格は税込み3,850円です。

数に限りがございますので、お早目どうぞ。

どこ行く? りまはく!



島根県立古代出雲歴史博物館

Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4

TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350

[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)

開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)

休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター  
雲太くん



発行/令和2年9月



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん